# 1997NF見聞録

第三十九回京都大学十一月祭は、今年も大勢の来場者でにぎわいました。会場内ではユニークな教室企画、構内至る所での店舗企画やバンド演奏、そして自分たちの興味や関心に基づいて企画された講演会と、さまざまなかたちでの表現があったと思います。

すでに文字どおり「祭りのあと」となり、冬を迎えた大学構内はあれほどの盛況が嘘のように静かです。一定の時間や場所に縛られず表現してゆく、その可能性としての大学を夢想しつつ、本紙編集員が出席したいくつかの講演会企画のレポートと、店舗企画での参加者にも気になるリサイクルの報告記事を掲載します。（編集部）

## ——ことば、紡いだ
## 「在日を生き」ながら、描き続けた闇

**梁石日講演会**

**夜を賭けて**
**この闇を見つめざるもの**
**未来を語るなかれ**

**主催：民族学校出身者の京大への受験資格を求める連絡協議会**

「今、差別が無くなっていると思われているが、違う。潜在化している」。講師である梁石日（ヤン・ソギル）さんの言葉であるが、この言葉がなぜか私に重みを持った。闇の中に埋められた在日朝鮮人の状況を「在日を生きる」という信念を持って、今日まで描いてきた彼の言葉であったからであろうか。

梁さんは、在日朝鮮人が多く住んでいる大阪市東成区で生まれた。梁さんの母親は済州島出身で、工場労働者であったが「人買い」に騙され、日本に連れてこられたそうだ。済州島は朝鮮半島の南方にある島で、日本でいうと沖縄のように、朝鮮半島（梁さん曰く「陸地」）から差別的に扱われている地域だそうだ。さて、梁さんは中学生ころまでは朝鮮長屋で在日朝鮮人に囲まれて暮らし、日本人と個人的に付き合いがなく、朝鮮人だからという理由で差別されることはなかったという。母親が朝鮮の着物を着て参観日に来ることもよくあったが、このことに違和感なかったそうである。しかし地方では本名さえ名乗れない在日朝鮮人がいた（いる！）し、大阪を出て初めて梁さん自身も朝鮮人差別を経験したということである。

次の話は、梁さんの作品にもなったタクシードライバーの頃の話である。住宅難・渋滞問題に悩まされた一九六〇年、ある客が「今もし満州があればなあ」と嘆いていたことや、梁さんのタクシー運転手の親友が、「朝鮮人は嫌いだ」と言うので梁さんが理由を尋ねると、親や近所の人が言っていたからだと答えたことなどを語ってくれた。また、近所の子供が「昔朝鮮は日本のものだったのに朝鮮人に取られた」と言っていたこと、梁さんの子供が仲良しに「韓国人やから韓国に帰れ」と言われた体験なども語った。最近の関西大学の差別落書き、インターネットで差別文書が流されたことも挙げ、「差別はなくなっているのではなく、潜在化しているのだ」と、差別に気づかないあるいは気づこうとしない現代人に問題意識を投げかけた。

また終戦後、梁さん曰く「出会うべくして出会った」金時鐘さんとともに、梁さんが『ヂンダレ』という詩サークルで活動したときのことにもふれた。その頃、在日朝鮮人の間では「朝鮮に帰るんだ」という考えが主流だったので、そのような中で「在日を生きる」と主張した梁さんはかなり批判されたそうだ。それでも「日本の状況をおいて海の向こうの状況を描くのでは駄目だ。日本の状況を描かなければ」という信念のもと、文章を書いてきたという。

梁さんが二十二歳のとき、生活苦のため金時鐘さんとともに鉄集めをやったときの話もされた。今の大阪城公園の近くの、戦中、東洋最大の兵器工場といわれた工場跡で、いわゆる「アパッチ族」として鉄を集め、警察に追われる暮らしをしたそうだ。警察から逃げて、五キロメートルもある爆弾の穴に飛び込んだこともあると、当時を懐かしんで語ってくれた。梁さんの著書『夜を賭けて』はこのときの体験も、元とされている。「（この作品は）在日朝鮮人に視点を置かないと描けないものだ」と梁さんは言う。

『夜を賭けて』のもう一つの元となった「大村収容所」にもふれて、「アパッチ族の話と切り離せない」と、戦後の在日朝鮮人と大村収容所の関係を語ってくれた。戦後、朝鮮に帰っても金も土地も無く、あるいは日本人と結婚しているなどのため、朝鮮に送られても日本に帰ってくる朝鮮人がいた。「大村収容所」は、その人たちを密航者だとして強制収容した所である。後にはベトナム・中国・フィリピンの密航者を収容することになる。しかし、この収容所のことを地元の人でもほとんど知らないという。「（存在自体が社会から抹殺されていたという点で）『従軍慰安婦』と同じだ」と、梁さんは闇から闇に葬られる暗黒の歴史を描いてきたのだ。

時間とともに埋もれてゆく在日朝鮮人の状況を、文学を通して掘り起こしてきた梁石日さん。「在日」を生きてきた彼の文学観・民族観の一端を知ることができた講演会であった。（眠）

---

## 生ゴミを堆肥にしよう！

NFでは様々な模擬店が軒を並べ、大勢の人でにぎわった。この記事の読者の中にも、食べ物関連の店舗を出したり、客になったりした人も多いだろう。記者も唐揚げ、鯛焼き、焼きそば、芋シャンティーに舌鼓をうった。しかし、ただ買って食べるだけでは終わらない。調理の際には当然ながら、大量の生ゴミが出ることになる。そのゴミの一部を堆肥化しようと活動したのが環境対策委員会である。

環境対策委員会とは、NFで出るゴミを減らすことを目的とした学生からなる委員会である。会ではNF期間中、使い捨ての皿を少なくするために、洗って何度も使える皿の貸し出しも行っている。

ゴミの堆肥化を行うために準備しなければいけないものは、米屋から調達した米ぬかとEM菌である。EM菌とは微生物の集まりで、今回は有機農研（有機農業研究会）の顧問である農学部教官の西村和雄さんが用意した。

「堆肥化」のシステムは以下の通り。この活動に参加している模擬店が米ぬか一袋、水で希釈したペットボトル一本分のEM菌を会から受け取る。模擬店は、それらを生ゴミに混ぜて吉田キャンパスの焼却場に持っていく。会のスタッフがさらに米ぬかとEM菌とを加え、しばらく寝かせると肥料のできあがりとなる。できた肥料はE号館の東側と岩倉にある有機農研所有の畑で利用されることになる。

生ゴミの堆肥化はゴミが減るだけでなく、肥料も作れて一石二鳥だ。これでNFのゴミ処理問題も万事解決！……とまではいかないだろうが、この活動が来年以降も続いてほしいものだ。（こ）

---

## 私を見つけるための方法
## 「女性解放」と「自分解放」の間に揺れて

**田中美津講演会**
**いま、わたしたちにとって**
**リブとは**

**主催：矢野事件をウヤムヤにさせず性暴力のない京都大学をめざすグループ『紅』**

リブって一体なんだろう。解放？そんな便利な言葉では何もわからない。というよりもリブと言った時に問題となるのは、おそらく言葉の定義や理論ではなくて、具体的にその人がどのように生きるかということではないかと僕は考えてきた。だからリブという言葉はその人の生きる現在性を帯びると思うのだが、だからこそこの講演会のタイトルの「いま」という部分に惹かれて会場を訪れた。

講師の田中美津さんは、そのリブという言葉もまだ知らないうちからリブをやってきた人だ。彼女自身フェミニズムの言う「女性解放」と、自分自身による「自分解放」との間にズレを感じていたそうだ。例えばリブを始めた時に年齢を一歳ごまかしたという。その理由は、当時フェミニズム運動に対して「女性解放＝ブスのひがみ」という一般的な認識があり、自分があまり年をとっていると運動のイメージにとって好ましくないと考えてのことだったそうだ。また、未来の幸せを掴もうとする周囲の女性を見つつも、「それどころじゃないよ」とか「自分はとても価値のないものだ」とか言う自分の中の声を聞いていたと語る。しかしよくよく考えてみると、リブを始めたからといって急に自分の中のバツがマルに変わるはずもなく、むしろ一歳ごまかした自分を大切にしてそこから出発したいと思い至ったそうだ。

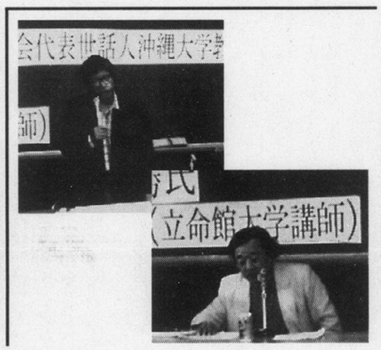
美津さんは公演中ずっとこの自分解放ということを丁寧に説明した。例えば「人間は球形である」という言葉を用い、女性一般も男性一般も存在せず、様々な側面を持つ存在として人間を見よう、自分を生きてゆこうということを強調した。また、連合赤軍事件の際に、永田洋子という女性闘士がイヤリングをしていたことが仲間の「総括」の対象になった話を挙げた。当時美津さんはその永田洋子を自分と重ね合わせて見たと言う。つまり闘士としての女とイヤリングしたい女を合わせ持つ存在として。そしてそのことに負い目とショックを感じ、四年近く日本を離れてメキシコで生活する中でいろいろと考えたそうだ。詳しくは語られなかったが、そこではまず「日本人である」ということから考え始めざるを得ず、その過程で「女性である」ということは選び直せそうだと考えるに至ったと語る。

現在美津さんは「嫌な男からお尻をさわられたくないが、好きな男からさわられるお尻はほしい。そして女性解放するために生きるのではなく、この二つを両立させて生きる」と言い、自分の中の女性性を否定するのではなく、自分の中のせめぎ合いをそのまま丸抱えで生きる道を選択している。そして「全部持っている人ははたから見るとつまらないが、文化とはそういう人をいかにたくさん抱えるかということではないでしょうか。でも、しょうもない私としてしっかりと自立する、自信を持って自分の中に確実性を持って生きるということが大事になってきているのではないでしょうか」とも述べて、自分をとりまくものとの葛藤を示しつつ、イメージとしてしかない「解放された女」をとらえようとしていると語る。

また美津さんは、この自分解放の作業の上で「現在」を大切にすることをくりかえし述べた。「自立した女になったら、ものがわかったら、というのでは過去と未来にしか生きていない」と言い、現在ある自分を肯定することから始めることを強調した。そしてその上で「意味のないことをしっかりと出来るかどうかが大事」、「私たちには『今』という時間しかない。だから今感じられるものを感じないで生きることはつまらない。刹那的な意味ではなく『今日』だけ生きることが大事。なぜなら幸せな現在は幸せな過去をねつ造できるから」と静かに語った。

講演の中で何度も語られた「現在の自分をあるがままに受け入れる」という言葉を、「単純な自己肯定」と受け取るべきではないだろう。他人との関わりの中で自分の中のマルとバツとをきちんと見つめること、その上でマルはマル、バツはバツで生かしてゆくことと捉えるのがきっと正解だ。

そして具体的にどうするか？僕はどのように他人と関わってゆくか？それはその時その場にいる人との「現在」を大事にし、その中で気づくしかないだろう。そういう意味では僕自身が田中美津さんと近い距離で話をしてゆく中で見つけてゆくしかなかっただろうし、講演会という形で「リブ」を語るのは限界があったかもしれない。しかし僕自身が考えるべき問題、あるいはそれを解くヒントを得られた楽しい場であったと思う。（公）


会代表世話人沖縄大学
師)
氏
(立命館大学講師)

---

**新崎盛暉／徐勝講演会**

**アジア—沖縄の民衆とともに**
**新ガイドライン—有事体制を撃つ！**
**～ふたたびアジアに**
**銃を向けないために～**

**主催：あくと**

## 基地とガイドラインの歴史的な意味を考える

「沖縄の基地をなくしたいと思うが、周りに基地がないため実感としてその思いが伝えられない。『本土』で運動を進めていくときに（沖縄の基地撤去運動に）どの様なアプローチの仕方があるのだろうか」、「署名活動や首相に個人的にハガキを送ることにどのくらい影響力があるのだろうか」と会場から質問があがった。二十三日、法経七番教室で行われた、新崎盛暉（あらさきもりてる）さんと徐勝（そすん）さんとの講演会での一幕である。これに対して新崎さんはまず、現在実際に運動を続けている知人の出席者に発言を求めた。するとその答えが印象的だった。「問題は大きすぎ、橋本（首相）のやろうとしていることはひどすぎて、今にも負けちゃいそうで心配でたまらないんですけども、なんとかなると信じながらやっています」。そして続いて新崎さんは「これだという明確な処方箋はどこにもないんですよね。沖縄の基地問題における『本土』と沖縄の関係をいろいろと説明すれば少しは分かってもらえるのではないかと思って、あちこちで喋ったり書いたりしています。楽観はできないけど絶望もしないでやっていくしかない」と述べた。ただでさえ「政治に無関心な人が多い」と言われる現在、日米安保や米軍基地といった「本土」では身近に感じにくい問題を人に伝えていくことは非常に困難であろう。その困難さがひしひしと伝わってくる一方で、そのような問題に取り組んでいる人にとっては元気づけられる話だった。

新崎さんは「アメリカの世界戦略に従属もしくは補完するものとして日米安全保障政策があり、その安全保障政策に付随するものとして日本政府の対沖縄政策は展開する」と日本政府の対沖縄政策を位置づけた後、日米両政府の沖縄政策の流れを説明した。米軍基地の話で言えば、日米安保条約が制定した頃から一九六〇年の安保改定の頃までに日本の米軍基地は約四分の一に減った一方で、沖縄の米軍基地は二倍に増えた。そして、六九年の十一月二十一日に沖縄「返還」が合意されてから七十四、五年までに日本の基地はさらに三分の一に減ったが沖縄の基地は減らなかった。沖縄に米軍基地が七十五パーセント集中する状態は沖縄「返還」によってもたらされたそうだ。そして、沖縄に基地が押しつけられる状況は、日米安保が常に政治の焦点として問題化せざるを得ない性格を持っているために、国が作り出したのであると新崎さんは説く。

現在の沖縄の状況では名護市の海上ヘリポートの問題を挙げた。沖縄県政が揺らぎ、名護市が孤立感を深めたときに市民の側から提起されたのが、海上ヘリポートの賛否を問う住民投票であるという。しかしその住民投票の条例にも条件付き賛成なるものが付け加えられ、地域振興策とヘリポート容認の抱き合わせが図られているそうだ。

徐勝さんは日米防衛協力のための指針（ガイドライン）の改定の意義として二点挙げた。一つは、現在はポスト冷戦と呼ばれる時代であり、明治時代から続く日本とアジアの対立構造を転換できる好機であるにもかかわらず、その構造を二十一世紀にまで延長する大きな事件であると。もう一つは日本に非常事態法を日常化していくものであるという。非常事態法とは自然災害などによる国家の危機に際して、憲法や法律の規定や人権の一部を停止、あるいは留保するものであり、例としては日本の戦時下の治安維持法や韓国の国家保安法が挙げられる。韓国の国家保安法に関連して、徐勝さんは自分の弟である徐俊植（そじゅんしく）さんが同法によって連行され取り調べを受けていると話した。講演会の二週間ほど前のことである。俊植さんが人権映画祭で「レッドハント」という映画を上映したことが、まず問題とされているそうだ。しかし、同じ映画が釜山国際映画祭では検閲を通って上映されているのである。このことを挙げて弁護士が警察側を追及したところ、どの様な映画を上映するかが問題ではなく、誰がどの様な意図で映画を上映するかが問題であると返答されたそうだ。乱暴な話だと徐勝さんは言う。

### アジアにおける日本の位置の模索

日米安保が沖縄になにをもたらしたのか、そしてガイドライン改定によって日本を含むアジアになにがもたらされるのか。それらを考えることの一助となる講演会であった。「今度は自分が日米安保・ガイドラインの問題を考える番だ」と思いつつ、会場を後にした。（こ）

もしもの時に…
用意は大丈夫ですか？

つまらない授業中に、くだらない講演会に、ねむたいシンポジウムで、ひまな学会で、食堂で定食を食べるときに、喫茶店で人待ちのときに、勉強の合間に、授業の合間に、チケット取りに並ぶときに、通勤・通学のお供に、映画館で上映を待つときに、公園で昼寝をするときに、下宿でご飯が炊けるのを待つときに、試験の前に、試験の後に、雀荘で面子待ちのときに、ビデオゲームで目が疲れたときに、まんがを読み飽きたときに、教科書より面白いものを読みたいときに、最近の学生の考えを知りたくなったときに、おいしい珈琲を飲むときに、ジュースをこぼしてしまったときに、畳の湿気を防ぐのに、京大の雰囲気を味わいたいときに、天気の悪い日に、テレビの映りが悪いときに、ステレオが壊れたときに、洗濯がおわるのを待つときに、恋人からの電話を待ちくたびれたときに、団交の前に。

京大新聞はこんな時に役立ちます

京都大学新聞　〒606 京都市左京区吉田 京都大学構内　TEL075-761-2054／FAX075-761-6095

講読・広告のお問い合わせもお気軽に

銀閣寺　黒潮丸

貝

貝料理・活魚・割烹・伊勢海老料理ならおまかせ下さい！

★名代　冬の味覚　—貝鍋コース—　3500円
知多鶏の大あさり　桑名のはまぐり　的矢のカキ
貝柱とその他野菜の鍋　雑炊　デザート

★名物　—黒潮焼—　3500円
大あさり　はまぐり　カキ　車海老
サザエの炭火焼きのコース　雑炊付

お問い合わせは Tel(075)-771-8712 まで

小和室ございます・各種宴会おひとり 3000 円から・三十名程度の団体様のご予約も承り致します。

銀閣寺卍
大文字山
京都銀行
信用金庫
京都信号
点滅
白川通り
今出川通り
北
東
南
西
バイカル
ケーキ店
錦林車庫
貝
吉田山

京都市左京区今出川通交差点
南二筋下ル点滅信号西入
●営業時間 十七時から二十三時

ゲイの11月祭天国！報告集

ゲイの天国
11月祭
☆トーク・セッション
浅田彰
+
平野広朗
☆レズビアン
ゲイの
サークル紹介
便利な用語集

浅田彰＋平野広朗

ゲイアクティビズムの可能性
——ヘテロ社会への提言

簡単な用語集
サークル紹介
なども掲載！

B5版
147頁

お問い合わせ
レズビアン？ゲイ？バイ？ヘテロ？......？生と性はなんでもありよ！の会
プロジェクトP　京都市左京区北白川東久保田町58　ポンポコハウス気付
Tel/Fax　075-723-4421　E-mail　hibino@mbox.kyoto-inet.or.jp
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/hibino/group/ProjectP/ProjectP.html
ご購入は、郵便振替口座「01040-1-23095　プロジェクトP」まで「ゲイの11月祭天国報告集希望」と明記して890円（送料込み）を入金してください。

**1997 研究所探訪**

## 桜島火山実験所　江藤庸男さんに聞く

# 数百年は続く研究です

京大の施設が全て京都にあるわけではない。京都から遠く離れた九州・桜島にも京大の附属施設がある。それが京都大学防災研究所附属火山活動研究センター（桜島火山観測所）である。

十月末、朝晩の京都は寒さも本格的になり始める。幾分寒さも和らぐだろうと期待して向かった鹿児島は、あいにくの曇り空で十一月末並みという寒さだった。そして予想以上に荒涼とした桜島の景色は、寒さに追い打ちをかけた。噴煙をあげる火山の麓を覆う、溶岩が冷えてできた灰色の巨大な岩、土石流によって作られた、海まで続く何本もの枯れ川。桜島火山観測所もそんな風景の中にある。

火山活動研究センター助手の江頭庸夫さんにインタビューをお願いした。

### 桜島の歴史

桜島火山は北岳、中岳、南岳から成り、霧島火山帯に属します。北岳は休火山で中岳も崩れていて古い火山です。五千年ほど前から現在まで噴火が続いているのが南岳です。

約二万三千年前の巨大噴火でカルデラができ、その時の火砕流は堆積してシラス台地になり、高層に達した火山灰は全世界中に飛んでいきました。その時の火山灰が富士山麓でも五センチメートル程度観測されています。その後、約一万三千年前に桜島火山が成長を始めたと推定されています。現在までで記録に残っている大活動は、文明（一四七一～七六）、安永（一七七九～八二）、および大正（一九一四）の活動です。大正の大噴火では流出した溶岩が瀬戸海峡を埋め、桜島は大隅半島と陸続きになりました。最も新しい溶岩流出は、一九四六年三月に南岳東側山腹火口から発生しました。

### 観測所が設立された経緯

山頂噴火が一九五五年に始まった時、地元から研究の要請があり、長続きしそうだったので一九六〇年に設立されました。始めは海沿いにあった昔の海軍の横穴坑を利用して観測を行っていましたが、一九六二年に南岳の中腹に観測所が設置されました。しかし、山頂にあまりにも近く環境が悪かったので現在の場所に設置されました。

### 普段の研究・観測について

研究目的は、桜島火山の噴火機構の解明と噴火予知、火山体の構造の解明、霧島火山帯の火山活動の相互関連性の究明、火山災害軽減などです。そのために地震、地盤変動、地熱、重力、地磁気、噴火映像、空気振動、地下水、火山ガスなどの観測データの分析をしています。これらのデータはこの観測所の他に、桜島内のいくつかの観測地点や、無人の観測室がある薩摩硫黄島、口永良部島、中之島、諏訪之瀬島などからテレメーターで送られてきます。新事実は、最新のデータと昔のデータを比較することで発見されることが多いです。つまり、一代で完成する仕事ではないのです。教育は重要ですね。

水準測量をする時には、コンクリートを練って水準点を作ることから始めます。しかも一つの水準点がだめになったら観測データが全て使えなくなるので、水準点を数百メートルおきにいくつも作るんですよ。ここの職員四人で一日に四キロメートルくらい水準測量をするのですが、業者に頼むと一キロメートル当たり約十万円もかかるので、一日に一人で十万円稼いだことになりますね（笑）。観測装置の修理も大体自分たちでやります。急な時は移動観測車に観測機材を乗せて地震観測などに出かけることもあります。二十四時間、誰か一人は必ず観測所にいます。また、大正噴火の時を参照して、一週間は篭城できるようにしてあります。

### 他施設・他分野との協力について

京大の阿蘇の火山研究施設は教室が同じなのでつながりが深いですね。あとは九州大学の島原の観測所、東京大学の霧島の観測所などです。雲仙普賢岳の噴火の時には行ったり来たりして半年くらい向こうにいました。別の火山にも同じ方法論で応用が効きますから。また、鹿児島地方気象台（気象庁）、桜島砂防出張所（建設省）、JAL鹿児島空港事務所（JAL）へ地盤変動データを伝送しています。JALへ送るのは噴煙に飛行機が突っ込むとガラスが割れることがあるからです。

火山学会の会員は約千二百人ですが、そのうち火山物理系の研究者は五十人以下なのでみな仲間のようなものです。火山研究者の出身分野は地球物理学、地質学、化学などですがそれぞれ補い合って研究しています。

国際的な協力としては、JICA（国際協力事業団）に火山学の研修コースがあるのですが、それは東京で講義を受けてから各地の観測所で約二ヶ月間実習するというものです。ここ桜島へはインドネシアの火山観測所の職員の方が二人来ていました。フィリピンの火山調査所の方もいました。

他分野との関わりとしては、考古学の年代測定への協力や社会心理学――危険な時にどのように「危ない」ということを知らせるか――など。火山灰で農作物がだめになるので農業とも関連がありますね。他に火山灰に関連する所では、灰と健康ということで公衆医学とも関係があります。

また予知についてですが、現時点では山頂噴火（爆発的噴火）の予知は八十パーセント以上可能です。

### 桜島での生活について

火山灰が、多い時は一晩で十五ミリメートル程も積もります。そんな時は職員五、六人で掃除をするのですが一日がかりです。今年は二十五年ぶりに極端に少なくて、月に約一万トン程度ですが、普段は灰色の世界ですよ。髪が火山灰でガチガチになるので帽子や手ぬぐいは不可欠です。目も痛くなりますね。スタッフ十一人のうち、島内に住んでいるのは四人で、他は鹿児島市内に住んでいます。

### 火山研究を志すようになったいきさつについて

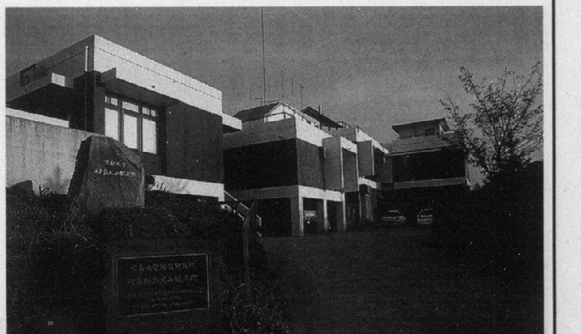
教室よりもクラブ活動中心で、探検部に所属していたのですが、学部三回生の時（一九五八年）阿蘇の噴火があって、研究室の歓迎会の後、そのまま夜行で阿蘇へ行き、夏は二ヶ月いました。決定的だったのは、四回生で桜島の溶岩ドームの頂上に行った時、噴火が起こる瞬間を目の前で見たことですね。出身地が沼津という火山だらけの土地だったことも影響しているかもしれませんが。以来、テストの時だけ京都に帰っていました。大学院を出てからはずっと桜島にいます。

ところで、最近は院生が増えていますが今の院生の人数では教官が相談にのるのも大変なのではないでしょうか。

＊　＊　＊

インタビューを終えて外に出ると、辺りは夕焼けに染まっていた。桜島で初めて「色彩」を見た気がした。しかし、鮮やかな夕焼け空よりも灰色の南岳になぜか目がいってしまう。それは、その灰色の火山を見続けている人の生活に――ほんの少しだとしても――触れられたからなのかもしれない。

**江頭庸夫氏・京都大学防災研究所付属火山活動研究センター助手、大学院理学研究科応用地球物理学専攻修士課程修了**



---

## 屋久島　野外サル観測ステーション

# サルを観察する生活

## 屋久島に来て見えたものがある

### 縄文杉と雨の島

樹齢数千年と言われる「縄文杉」で有名な屋久島は、鹿児島から南に約六十キロメートルの位置にある。直径はおよそ三十キロメートル。黒潮本流のただ中にあり、海岸部はぎりぎり亜熱帯性の気候を示す。

それに比べると、島の中央はぐんと寒くなる。中央部に広がる山々は奥岳とよばれ、九州一の高峰である宮之浦岳（海抜千九百三十五m）を始めとして、標高千八百メートル級の嶺が連なっている。この標高差のおかげで、屋久島には亜熱帯から冷帯までの地域が集まっており、独特の生態系を作り出している。自生する植物の種類が多く、屋久島にしかいない固有種も多い。白神山地（青森・秋田）と共に、一九九五年に日本初の「世界遺産」に登録されたことも記憶に新しい。

屋久島はとにかく雨がよく降る。「一ヶ月に三十五日雨が降る」といわれるほどで、海岸部でも年間二千から四千ミリメートル。島の中央部では年間降水量が一万ミリに及ぶ所もあるという。

私たちが屋久島についた時も雨が降っていた。テレビは「十二月中旬並みの気温です」と伝える。雨は冷たく、風もきつい。昼過ぎになって、ようやく青空が見えてきたものの、結局風はやむことがなかった。

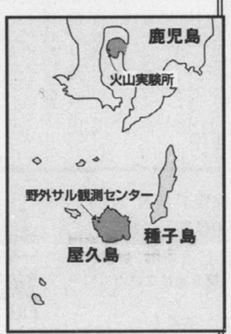
「もう少し温かいところだと思っていたのに」とちょっと恨めしかった。

### サルを追う毎日

「今日はとんでもなく寒いですね。風も冷たいですし」、といいながら私たちを出迎えてくれたのは、京都大学霊長類研究所の修士二回生の早川祥子さんだ。屋久ザルの研究をしていて、霊長類研と屋久島の「野外サル観測センター」とを行き来する日々を送っているという。

この観測センターは愛知県犬山市にある霊長類研の付属施設。全国に五ヶ所ある野外サル観測センターの一つだ。といっても常駐している人もおらず、大した設備はない。民家と間違えそうな平屋建ての観測センターと、その隣の「サル小屋」と呼ばれる木造の古びた小屋だけだ。小屋ができたのは屋久ザル観察の黎明期で、当時は京大の施設ではなく、屋久ザルの研究者たちが地元から土地を借りて建てたものだという。

屋久ザルの調査にはここがベースキャンプになる。



研究者は朝ここをでて、夕方になると帰ってくる。日曜も祝日もなく、ほとんど毎日調査に出かけるという。

「屋久島にいる間はずっと調査していたいくらいです。霊長類研は犬山なので、いつでも屋久ザルの調査ができるわけではないんですね。思いたった時にすぐ来るということもできない。だから屋久島にいる間は、できるかぎり調査するんです」

「日の出から日没まで観測しています。朝は六時に起きて、お弁当を作って、お昼はそれをサルと一緒に食べます。夕方になると帰ります。なにせ夜になると電灯もなにもないところですから、ほんとうに真っ暗になるんですね。そうなったら恐いので、それまでには帰るようにしています」

屋久島にくると研究熱心になるそうだ。どうやら屋久島ではそれが普通らしいとも。

当たり前のことだが、サルは道でないところも歩いたり走ったり跳んだりする。だから怪我も多い。擦り傷はしょっちゅうだし、「昨日は崖から落ちて、腰を打って痛い」ということも珍しくはないそうだ。「フィールドサイエンスですからこんなものですよ」と早川さんはこともなげに言う。

### 「餌付け」はしない

屋久ザルの調査には「人付け」と呼ばれる方法を用いている。「人付け」の一番の特徴は、サルにえさをやらないこと。時間をかけて、少しずつサルになれさせ、群れに近づいていく。近づいてもサルに逃げられないようになるまで、数ヶ月以上かかることもある。その間毎日サルに近づきに行く。ストーカーも顔負けだが、そのおかげで野生のままのサルを観察できるようになるのだという。

サルの群れといえば「餌付け」というイメージが強いが、今はやらないという。

「食べるものから群れの性質までがらりと変わってしまって調査に不適当だし、害悪も多い」というのが理由らしい。屋久島で生活をしていたこともある、京大生態研助教授の湯本貴和さんの著書「屋久島」（講談社ブルーバックス）では、観光客に餌付けされたサルに「乞食ザル」という厳しい評価を下している。

実際のところ、餌付けされたサルは果実などを好むようになり、農作物の被害も格段にひどくなるという。そのため、屋久島では車の後部や看板など、いたるところに「（サルやシカに）えさをあげないで」という表示が目立つ。

屋久島の猿害はひどいものだ。ポンカンがよく狙われるが、サルは枝を折るので次の年もダメになる。猿害と餌付けとの関係、増え続ける観光客との関係も指摘されている。「地元との関係には悩みます。サルを保護するべきと無条件には言えない現状がありますから」。「サルが好き」という早川さんも、猿害には心を痛めている。

猿害の対策として、最近は畑を囲う電気柵などが取りいれられている。これには屋久ザルの習性を調べた研究の成果も生かされているのだという。

「人もサルも幸せに暮らせるようになれたら、と考えます。研究をとおして、地域に役立つことができたらいいんですけどね」。最後に、笑いながら希望を語ってくれた。（関）

---

## info

●死刑制度を考える「いのちの絵画展」
日時：十二月二十三日～二十八日／場所：京都市（ギャラリースペースフォー　ユー）／主催：アムネスティ・I京都協議会（TEL〇七五―七七一―〇四九一）
九八年二月頃　徳島市（詳細未定）
九八年五月　東京都（詳細未定）

●クロード＝ランズマン監督作品『SHOAH』上映会
日時：二月八日（日）／場所：京都北文化劇場（〇七五―四九三―〇五六七）／主催：エースピクチャーズ（東京都文京区本郷五―二十四―五）／連絡先：〇三―三八一七―六七一六

●特別展「世界平和ミュージアム交流展～ベトナム・タイ・ミャンマー編～」
期間：十一月十二日～三月八日／場所：ピースおおさか（大阪国際平和センター）特別展示室／主催：ピースおおさか／入場料：大人二百五十円、高校生百五十円（中学生以下、六十五歳以上および障害者の方は無料）／連絡先：〇六―九四七―七二〇八

●「朝鮮人BC級戦犯の記録」上映会
日時：一月十八日(日)　十三時二十分～、十五時四十分～（十四時三十分から監督の本橋雄介氏のお話）／場所：京大会館（〇七五―七五一―八三一一）／主催：ドキュメンタリー・フィルム・ライブラリー／入場料：一般千円、会員七百円／連絡先：〇七五―三四四―二三七一

京都大学を知る本
10月発売開始　定価1400円（税込み）
97
京大新名所案内　元教授 山田稔
ニュースで振り返る京大の一年
京大百周年で100億の予定がわずか3億 時計台の悲しき胸算用
聞くも涙、語るも涙の京都貧乏生活
▼これでも大学は国際化したと言えるのか
民族学校卒業者受験資格を考える
▼京大セクハラ事件の真相とその後
自治を掲げる大学の落とし穴
▼自主管理空間の灯を消すな
新サークル棟建設問題を探る
▼日本語も？？だけど、それでも外国語のススメ
英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語
スペイン語・中国語・ロシア語
ああ無情、悲喜交々の学生労働者哀歌
「学者って何？」学者の卵4人が大討論会
創刊十一年目を迎え、ますます豪華な内容に!!
編集　京都大学新聞社　販売　六甲出版
京大生協他、全国有名書店で絶賛発売中!!

通商産業省の情報処理技術者試験（国家試験）
第一種・第二種情報処理技術者試験
情報化社会に求められる人材！
企業では、コンピュータを活用しあらゆる事務の効率化を進めており、一人一台のパソコン時代を迎えようとしています。必要な情報・データは、自分で収集・加工・編集・活用できる力が求められています。この試験は「情報システムの開発・活用に関する能力を通商産業大臣が認定する」ものです。企業へ就職してもすぐに役に立つ技能を身につけよう。
試験日　平成10年4月19日（日）（予定）
案内書・願書の配布・受付　平成10年1月6日（火）～2月6日（金）（予定）
〔案内書・願書の配布先〕〒540　大阪市中央区天満橋京町2－6　天満橋八千代ビル別館6階
情報処理技術者試験センター　近畿支部　TEL 06-946-6301
ホームページ　http://www.jitec.jipdec.or.jp/　〔FAX情報BOX〕　FAX 03-5512-9240

新聞だけじゃない！
いろいろ出してる京大新聞
☆卒業アルバム「Year Book」
★入学アルバム「Fresh Book」
∴受験生向け雑誌「京都大学を知る本」
編集員募集中